

### 第3回（仮称）堺ミュージアム基本構想検討懇話会 議事録

1. 日時 令和7年11月13日（木） 15時00分～16時40分

2. 場所 堺市役所本館3階大会議室第3会議室

3. 出席 構成員7名

藪田貫構成員（座長） 藤野一夫構成員（座長代理） 和泉大樹構成員  
稲葉信子構成員 大澤研一構成員 國賀由美子構成員 佐藤郁子構成員

4. 傍聴者 9名

5. 会議次第

- 開会
- 議事

（仮称）堺ミュージアム基本構想（案）作成について

- (1) 第2回（仮称）堺ミュージアム基本構想検討懇話会の振り返り
- (2) （仮称）堺ミュージアムに求められる役割
- (3) （仮称）堺ミュージアムの施設・機能

6. 議事等の内容

（事務局）①-1 基本理念新旧比較、①-2 取り組むべきことの新旧比較、①-3 基本理念と新取り組むべきこと、②（仮称）堺ミュージアムに求められる役割、③（仮称）堺ミュージアムの施設・機能について説明。

（藪田）今回初めて提示された【求められる役割】と【施設・機能】について中心に議論をし、戻って【基本理念と取り組むべきこと】について考えていく。

（稲葉）新基本理念の5項目と、その文章については特に意見はないが、順番について、(1)調査収集・展示のデザイン、(3)ヒトをつなぐ場・教育普及、(4)ブランド発信、(2)建物（安全安心）、(5)社会課題、ソフトからハードにいく順のほうが素直に読めると思う。

【堺ミュージアムに求められる役割】で「役割」としているが、基本理念や取り組むべきこととほとんど変わらないので、使う言葉が違うのではないかと思う。【求められる役割】の5項目が、博物館法に基づく必要があるのかわからないが、基本理念や取り組むべきことときちんと対応しているのかどうかの方が重要で、この書き方は考えたほうが良いと思う。

【堺ミュージアムの施設・機能】は、建物を設計するために必要な実務的な書類。建築の施設機能に影響する面積配分、人の割り振りをするために必要。堺ミュージアムの組織図と人員配置に関係すると思う。

(藤野) 【基本理念】の(1)の文章「日本史上に存在感を示した堺が誇る・・・」について、日本史上に存在感を示したのは確かだが、過去形ではなく「国内外に存在感を示してきた堺が誇る・・・」のような現在完了形の方が良いと思う。

【堺ミュージアムに求められる役割】の調査研究項目「②地域や市民と共同での調査研究」は、市民によって支えられる博物館として、将来ますます重要になってくるだろう。しかしながら【基本理念】(1)の文章には、市民との協働が含まれていない印象を受ける。「また個々の人々の探求心を喚起し、専門家とのコミュニケーションを促進する場となる」を付け加えると、「地域や市民と共同での調査研究」につながる基本理念になると思う。

「個々の人々」の言葉遣いについて、「すべての人」は for all という意味で使いやすい言葉だが、顔が見えない、誰のことでもないと感じている。今日議論する展示には「多様な視点を取り入れた展示」、利活用の④「多様な来館者・・・」の言葉遣いで、「すべての人々」よりは「多様な人々」の方がベターだと思うが、「多様性においてある個々の人々」が本来の定義だと思う。「個々の人々」は、それぞれの個性について言うだけでなく、外国人、障害者、年齢といった様々な立場に置かれている人々、一人一人に焦点を当てる意味では、「多様な人々」よりもさらに「個々の人々」の言葉の方が良いと私は思う。

【基本理念】(3)の「地域の課題についての解決に向けて取り組む」は「地域課題の解決に向けて取り組む」の方がシンプルで良いと思う。

【基本理念】(4)の文章は、歴史遺産・資源と、美術、主にミュシャと一緒にすることによる相乗効果や、それによって展示や活用に付加価値がつくだろうこともわかるが、続く「生み出される新たな価値」は、展示や活用を通して新たな価値を生み出すことなのか、私の語感からは据わりが悪い。最後の「堺来訪の主目的たる施設となる」は、急に観光目線になっていて、「幅広い層の興味関心を惹きつける」のは、堺に住んでいる個々の人々のことを指しているのか、観光客のことを指しているのかわからない。少し言葉が強くなるので「堺来訪の有力な目的たる施設となる」でも良いのではないかと思う。

取り組むべきこと⑤の文の「多面的に学べ、思考を促すプログラム」は、先ほど基本理念で提案した「探求心」という言葉でも良いのではないかと思う。

(大澤) 【基本理念】の順番については、今回どこを打ち出すのかを定めるべきだと思う。それとストーリー構成を考えて、私は(1)、(4)堺ミュージアムがめざす方向性として大きな軸になる「堺の歴史文化資源のブランド力を発信する場」、(2)安全な場所、(3)市内外、国内外から集まってきて人がつながっていく文化の広場、(5)社会課題に向き合う、と順番をつけた。

【堺ミュージアムに求められる役割】は、博物館法の博物館の基本的な活動、機能、役割に即した分類に縛られる必要はないと思う。この分類は基本理念とうまく繋がっていない印象を受ける。私はこれからのミュージアムにおいて重要な機能としては、情報発信を掲げる必要があると思う。収集など様々な活動をいかに外へ発信して、ミュージアムがやっている役割を広く知ってもらい、さらにその活動を充実させていくことが強く求められていくだろう。

これからのミュージアムとして求められるものは本当に何なのか、基本理念からつながっていく部分をしっかり考えながら整理することが必要だと思う。

(國賀) 【堺ミュージアムに求められる役割】は「～に求められる」という受動的な言い方ではなく、例えば「堺ミュージアムが担う」と、もう少し能動的な文言がいいと思う。

また「保管・保全」に「②防災策を踏まえた保管」とあるが、防災と防犯は通常セットだと思うので「防災・防犯」など防犯も付け加えたほうがいいと思う。

「収集」については、方針は現在検討中ということだが、収集方針の策定は急がれるべきで、組織図、人員配置にも関わってくる。

【取り組むべきこと】の③に、「収集方針に則り、堺の歴史・文化に関する資料を収集し、」とあるが、①には「アルフォンス・ミュシャ等所蔵作品」、⑦には「ミュシャ・コレクションをはじめとする美術資料」と両方にミュシャのことが書かれている。収集方針の一つとしてミュシャを挙げるのであれば、ミュシャの作品だけではなく、ミュシャが影響を受けた人たちや同時代の他の作品、様々な関連作品等も収集していく必要があると思う。新たな収集や次の展開までもう一度再検討する必要があるだろう。学芸員も仕事の範囲が違ってくるので、収集方針を早く決めて、その中でミュシャの作品をどう位置づけるのかを検討することが大事だと思う。文言の中でも、ミュシャだけが個別のものとして、他のものは個別に出てこないのは違和感がある。

【堺ミュージアムの施設・機能】の展示機能で、「ミュシャ・コレクションを活用した常設展示室の整備」とあるのに、他のコレクションの活用については常設展示室では謳われないのはどういう意味合いなのか。

(佐藤) 【基本理念】(4)「堺の歴史文化資源のブランド力を発信する」という考え方について賛同する。観光というと、物見遊山とか、経済効果とか、そういう次元に集約されがちなところを、視座を上げて、観光の価値はそれだけじゃないことを理解していただいた言葉遣いだと感じており、いい言葉だと思う。

【取り組むべきこと】の⑥「関連施設との連携や価値の共創をおこなう」、⑧「次なる学びにつながる市内周遊・観光を誘発する仕掛けをつくる」は私の指摘が修正に反映されたと思う。また【取り組むべきこと】で、ミュシャの所蔵作品のことだけ、具体名が2回出てくることには違和感がある。

【堺ミュージアムに求められる役割】は、他の施設や組織の果たす役割もある中で、このミュージアムはこういう役割を果たすかという観点で関係性を整理されるように、例えば堺ミュージアムは何々のリーダー役を果たすとか、先駆的役割を果たすとか、つなぐ軸となるとか、他の施設や組織との関係を示すような言葉遣いに全部収斂されないと、このページの意味付けがわかりにくいと感じた。例えば利活用の①「地域コミュニティとの連携」も、連携の主軸と何の役割か、この分野において他施設はこうだがミュージアムはこうだと全部わかるように書くべきだと思う。特に⑤「観光資源としての活用」は、堺の文化的ブランドの発信源のような観光資源としての活用というよりは、文化的なブランドの発信源、発信にもっと力を置いた言葉遣いに変えていただきたいと思う。

【堺ミュージアムの施設・機能】の◆観光・集客エリアで「ミュージアムショップ、ミュージアムカフェ（レストラン）等の整備」とあり、集客施設として飲食と買い物施設が大事という共通認識があり、なければクレームがあるかもしれないが、あるからといってそれが動機付けになるのかというと、それは違うと思う。動機付けの面で必要な施設・機能としては、もっと堺の文化のブランドを象徴するような何か、モニュメントとか、施設、展示というものが欲しいと思う。そのようなものが観光集客としては一つ必要だと感じている。

(和泉) 【堺ミュージアムに求められる役割】で、利活用が「その他」のように映ってしまい、利活用というまとめ方がいいのかどうか疑問が残る。利活用の⑤「観光資源としての活用」の文言、考え方を変えてもらいたいと思う。ミュージアムを観光資源として活用することは、観光者を集客するという、受け手側の発想での役割が顕著になると思うが、実はミュージアムは、地域の観光振興を創造することができる施設だとも思う。新しい堺ミュージアムにはそれぐらいのエッジが立った観光への考え方があって良いのではないか。観光資源と言うと「人が来るところ」というイメージがあるので、もっと観光を作っていく発想が必要だと思う。また【求められる役割】に、「発信」ということは必要だと思う。

調査研究で、文化財という文言が使われているが、【基本理念】では「文化遺産」という言葉が使われている。別に法的、行政的規定がある文化財という言葉でなくてもいいと思う。文化遺産とか文化財とか、統一されたら良いと思う。

【堺ミュージアムの施設・機能】で、ヒストリックカーはどこに行ったのか。

(藪田) 【基本理念】の並べ方に問題があり、これはソフトからハードという考え方と、堺ミュージアムでやるべきことの目標に合わせて並べるという意見があった。

【ミュージアムに求められる役割】について、まずは受け身でいいのかという発言があった。全体の文章の流れとも関わってくるので、主体化、客体化ということを含めて統一した方がいいと思う。それから、これが基本理念の1から5とどう対応しているのかが見えてこないという意見があった。

すべての文章にわたる言葉遣いとして、「すべての人々」も含めていくつか言葉遣いについて重要なお指摘を受けた。

施設と機能について、これは全体の組織図と対応しているはずで、それを抜きにこれだけ議論することは不十分ではないかという意見があった。

(事務局) 「すべての人々」「多様な背景を持つ人々」という言葉を色々な場所で使っていた。「多様な」はベターではあるが、「多様な人々」と書いた時にいろいろな背景を持っている方のことを具体的に想像できなければ、多様な人々でフォーカスされてしまう懸念もあると考える。「すべての人々」、「for all」だけでは単純だと思うので、「多様な人々」と書く段にさらに細かい説明があるか、「個々の人々」と本当の一人一人に焦点に当てた言葉にするのか、文章に応じて使い分けは検討したい。

「文化財」とか「文化資源」が混在しているという意見について、「文化財」は何を示すのか、「歴史文化遺産」や「歴史文化資源」が何を示すのかを、整理しかねているところがあり、用語の抽出を行い、使い分けを検討する。

あちこちで「利活用」という言葉が出てくるが、それが「その他」的な、すべてを集めて残ったもののようなイメージになってしまうということは、ご指摘の通りなので検討させていただきたい。

「観光資源の活用」も一言でざっくりまとめてしまい、利活用の用語の中で、さらに観光資源としての活用という用語、上位概念と下位概念で混ざっているところ、項目についても再検討していく。

(藪田) 【基本理念】の順番については今日決着をつけておきたい。稲葉構成員の意見は、(1)、(4)、(3)、(2)、(5)、大澤構成員の意見は、(1)、(4)、(2)、(3)、(5)ということで、ソフトから言うと(3)が先、ハードから言うと(2)が後。その並びだと、(1)、(4)、(3)、(2)、(5)だが、皆さんどうでしょう。

(稲葉) (2)と(3)の順番が違っただけなので問題ない。大澤構成員と違ったことを言ったつもりはない。

(藤野) 私はいいと思う。

(藪田) では、(1)、(4)、(3)、(2)、(5)でどうか。

(事務局) 順番について、(1)と(5)については内部でもあまり議論がない。(4)に情報発信をする場を強調して入れているところには、観光という言葉はないが、あくまでブランド力の発信で行くなら、情

報発信を重視するならば上に置くのもありだろうという意見もあり、大澤構成員の意見も十分に理解できる。(2)を下へ降ろして、ヒトにも安全安心な場と、(5)の中にすべての人々に開かれて、人々に平等に体験をしていただくこと、(2)はハードのことを書いたとはいえ、ヒトに焦点を当てたことを書いているので、(2)と(5)に親和性もあるかもしれない。これは、内部でも話をしていたことと重なる。今いただいた(1)、(4)、(3)、(2)、(5)の順番は、構成員の方々の提案として受け止め、検討したい。

(藪田) 【取り組むべきこと】について、地域の協働から収集方針が変わることもあるので、「収集方針に則って」は先のない方がいいという意見もあった。

ミュシャの位置づけについて、固有名詞として2箇所出てくる、この思いはわかるが、その意味がそれぞれ違う表現ができていればいいと思うが。

(事務局) 堺市博物館と堺 アルフォンス・ミュシャ館が一緒になることの、ストーリー付けが弱いのではないかという意見を前回いただいた。【取り組むべきこと】で個々にあげていくと、分断されたような提示の仕方、ストーリーになっていないと内部で話をしていた。相乗効果という言葉は当てはめているが、やはりアルフォンス・ミュシャが持っている作品としての力が、堺ミュージアムとしては一つ売りになる、着目してもらいたい点であることは間違いない。ここに来れば堺が分かる、アルフォンス・ミュシャと堺の関連は説明しがたいのは重々わかっているが、ミュシャの調査研究も行っていくことは、これまであまり打ち出していなかった、あえて打ち出して、(1)でやりたいということである。ブランド力の発信でも、ミュシャ・コレクションの潜在力を、もっと情報発信していきたいということで、あえて⑦の取り組むべきことでもミュシャ・コレクションを出したところである。ミュシャだけが個別に出てくる違和感は、今回のミュージアムの大きなコンテンツの一つという形では思っているものの、何か良い解決策がないか。

(稲葉) 現行の堺市博物館収集資料と、ミュシャ館の収集資料を並べるのであれば違和感はない。2つの館の機能を一緒にするだけなので。

(藪田) そうでなければ、位置づけも変えなければならないことになる。

(事務局) 美術館サイドとしても、当然、歴史博物館がメインで重要とわかっている、我々の思いと先方の思いと統一していると思うが、文章化ができてないということは、もう一度検討したい。

(藪田) 【堺ミュージアムに求められる役割】について、堺ミュージアムが担う役割など、主体的な表現に変えたらどうかという意見があった。

(稲葉) 「役割」という言葉は間違いだというのが私の趣旨。「役割」ではないと思う。

(事務局) 【基本理念】、【取り組むべきこと(方向性)】、その次の実務に近いレベルのステージを表す用語として【求められる役割】を置いているが、言われたように「役割」では合っていない。能動的、受動的も含めて、用語について検討する。

(藪田) 【堺ミュージアムに求められる役割】の「利活用」が「その他」のように見えるという和泉構成員の意見があった。さらに「教育普及」は、水と油みたいな形で並んでいるのをどうするか。この2つは「地域連携」としたらどうか。博物館における地域の連携として、地域的課題の話が書いてある。教育と地域連携の中に教育普及が入るのが難しいので、「地域連携と教育普及」という形にする。収集から展示までは従来の博物館がやっていることだが、今後役割として増えるのは地域との関係性だと思う。従来やってきた教育が子ども向けなら、生涯教育とか、地域の活性化という意味に、博物館が機能することから考えれば、この2つは「地域連携と教育普及」の形にできると思う。

(稲葉) 【堺ミュージアムに求められる役割】で書かれていることは、堺ミュージアムが行う具体的な事業。その中に足りないものとして、情報発信がある。【堺ミュージアムの施設・機能】には9項目ある。◆ボランティアと◆観光集客エリアは、◆管理運営の方だと思う。これも含め、【堺ミュージアムに求められる役割】に書かれてあるような内容を充実させると、どういう組織、形になるのかということ。「求められる役割」と書きながら、例えば観光集客、ボランティア利用エリアも大事な管理すべき、作るべきところで、それをどう作るのか、具体的な事業内容を書き上げることで【堺ミュージアムの施設・機能】とその後ろの連携が取れるし、【基本理念】とも連携が取れるのではないか。

(藪田) 求められる役割について主体、主語を変えることと同時に、施設機能と対応・関係させる。その上で基本理念との対応関係を確認する、そういう手順を踏んではどうかということだと思う。

(事務局) 【求められる役割】と【施設・機能】をどう関連付けるかは、作業として可能だと思う。

【基本理念】と【取り組むべきこと】は、関係として比較的収まりよく考えられた。ただし、【取り組むべきこと】も【基本理念】の複数にまたがるものがあり、実務面の業務を【基本理念】と【取り組むべきこと】にぶら下げていくと交差することが予想され、現行の博物館法でまとめると据わりが良かったのでこういうまとめ方をした。やはり【基本理念】、【取り組むべきこと】、それから実務面で担っていくことがうまく結びつき、その結果【必要な機能、設備】へ、また実際の設計、仕様書につながっていくのは、非常にロジカルな考え方と思う。しかしながら、取り組んでいくことと実務面の整理が難しく、それぞれの堺ミュージアムに求められる役割で示している。個別の丸数字の取り組みが、【基本理念】、【取り組むべきこと】のどれに結びつくものであるか整理をし、確認をしたい。

(稲葉) 無理して結びつけると、かえってわかりにくくなると思う。むしろ、そこで切り離して、基本設計に向かうための実務書類だと割り切れば、役割だとか夢のある言葉ではなくて、事業であると割り切った上で機能と結びつけた方がいいと思う。私はこの機能だけで十分で、機能を詳しく書くだけで、この役割に書かれたような実務機能は十分入ってしまうと思った。

(事務局) 【基本理念】、【取り組むべきこと】、【求められる役割】を紐づけることがうまくいかなかったので、こういう建付けにした。ご提案のように、施設機能、どういうものが堺ミュージアムに必要であるか、それに紐づく、それぞれの施設、部屋、場所で何を行うか、何が求められているのかということを整理したい。

(藤野) 「地域連携」という概念だが、地域連携にあたるところが分散している。【堺ミュージアムの求められる役割】の◆収集③「地域コミュニティとの連携」について、収集を含むことがとても重要だと思う。◆調査研究のところにも②「地域や市民と共同での調査研究」があり、これもとても重要。【堺ミュージアムの施設・機能】の◆教育普及機能、これは生涯学習としての機能を持っており、教育普及もかなり地域連携と近いことである。◆市民参画交流機能、また◆ボランティア利用エリア、これは諸室、実際のスペースを作る場合も重ね使いをできる場所だと思う。さらに人員配置を考えたとき、具体的に言うとキュレーターが何でもやらないといけないご時世だが、めざすべきはエドゥケーターと地域コーディネーターをしっかりと雇って、収集も調査研究も教育普及にも関連する地域連携の部分についてコーディネートできる専門家を何人か雇うような人員配置であり、このような計画も念頭において整備すべきかと思う。

(藪田) 【堺ミュージアムの施設・機能】については、もう 1 回議論できないか検討していただきたい。新しいものを作るわけだが、ゼロからスタートではなく、ミュシャも堺市博物館も、実績のあるところからどこを引き継ぐか、どこをプラスしていくのかを見える形で施設・機能を検討する方が合っていると思う。それは今いる人たちにしか見えない事柄なので、こうして抽象的に並べられると、博物館の事情を知っているかどうかで議論が偏ってしまうところがある。実務のところはもう一度中で揉んでもらった方がいいのではないかと思うが、次に進む段階までにどこまでがゴールなのか、ここはもう一回議論してはどうか。

(事務局) 検討について次回、4 回目が一応最後と考えている。【基本理念】と【取り組むべきこと】は、基本構想の肝になってくるところなので、いただいた修正案を反映した上で、【施設・機能】と【求められるべき役割】、担うべき実務を整理し、全体を見渡していただけるような形で整理し、次回準備したい。ご意見をいただいた後でも、まだ庁内でもいろいろと揉んでいくべきところが出てくるかと思うが、4 回目については、全体の提示、その際【施設・機能】については今回の意見を踏まえた上で提示するよう、急ぎ検討したい。

(事務局) 次回の懇話会は12月16日火曜日午前10時より、堺市役所本館3階大会議室で開催を予定している。第4回の議題は、基本構想案全体の確認を予定している。